



ジャステム

ジャステム（新潟県長岡市）は産業向け装置開発を手掛けている。半導体の素材となるウエハーを自動で検査・測定する装置を主力

にしており、2015年から加工装置の本格的な受注生産も始めた。景気変動による受注の増減に対処するため、半導体向け装置開発で培った技術を生かして自動車関連や食品、医薬関連の装置も開発し拡販に取り組んでいる。

同社は05年設立。新保良成社長の父で装置メーカーでの経験を持つ故良春氏と大手半導体メーカーに勤めていた人材が中心となり装置開発に取り組んできた。

《会社概要》

- ▽本社 新潟県長岡市新陽1の15
- ▽事業内容 半導体関連の測定装置や各種専用機的设计・製造
- ▽従業員数 14人（2016年12月末時点）
- ▽売上高 2億7000万円（16年1月期）

産業用の検査・加工装置

装置開発は市場ニーズを探ることから始まる。検査や測定の効率化などの要望を聞きつけると、内容によっては解決に向けたテストを無償で実施する。相手先から高い評価を受けると、本格的な製品開発に向けて必要な機能や装置の大きさなどの要望を細かく聞いて受注につなげている。

新保社長は「製品の多くが特定の顧客のための専用設計。手間がかかるため大手が参入しにくい」と指摘する。ただ、半導体の分野では海外企業の存在感が増しており受注拡大は簡単ではない。

同社はハイブリッド車のモーター制御やエアコンのインバーターなどの電力制御への応用が期待される「パワー半導体」に注目。



ジャステムは市場ニーズをとらえた装置開発に取り組んでいる（新潟県長岡市）

顧客の要望受け専用設計

パワー半導体を検査・測定できる装置のほか、加工装置も開発した。

加工装置の大きさは高さ100センチ、幅70センチ、奥行き45センチ。従来品に比べ小型のため、先端材料の開発に取り組む企業や大学の研究所の需要を取り込めるとみる。価格は1台500万円（税別）。年間3台の販売を目標としている。

半導体関連以外の分野での受注拡大も目指している。一時期は売上高の9割超を半導体関連の装置が占めていたが、08年のリーマン・ショックで受注が急減。「景気に左右されない安定した経営をするためにも、幅広い業種との関係強化が欠かせない」（新保社長）と判断している。

現在取り扱う装置は100種類以上ある。売上高に占める割合は半導体関連が約4割、自動車関連が約4割になっている。今後の成長が見込める医薬関連や食品関連の市場動向を探って装置開発を進める方針だ。展示会に出展するなどして新規顧客の開拓を目指す。20年1月期には16年1月期に比べ48%増の4億円の売り上げを目指す。（長岡支局長 皆上晃一）